



国際

沿岸レポート

## 濱口梧陵国際賞の創設と授賞式・記念講演会の報告

一般財団法人沿岸技術研究センター  
研究主幹 岸弘之

わが国の津波防災の日、11月5日が、2015年12月の国連総会において「世界津波の日」として制定されました。この機会を捉え、150年ほど前の江戸時代末期の安政南海地震で自らの資産を投げ打ち村人の命を津波から守った濱口梧陵氏の名を冠した「濱口梧陵国際賞」を、国際津波・沿岸防災技術啓発事業組織委員会（港湾空港技術研究所、土木研究所、日本港湾協会、国際臨海開発研究センター、沿岸技術研究センター、みなと総合研究財団、港湾空港総合技術センター）が、国土交通省、内閣府政策統括官（防災担当）等の皆様からのご後援をいただき創設いたしました。本賞は、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰するものです。

栄えある第1回目の受賞者は、沿岸域における津波の挙動を正確に再現する数値シミュレーションを開発された首藤伸夫教

授（東北大学名誉教授／日本大学教授）、世界で活用されている早期津波検知・浸水予測システムの構築に貢献されたエディ・バーナード博士（前アメリカ海洋大気庁（NOAA）太平洋海洋環境所長／ワシントン大学客員教授）、チリにおいて津波警報の発令の迅速化に大きく貢献されたチリ共和国内務省国家緊急対策室（ONEMI）の2名、1団体でした。授賞式及び記念講演会は、10月31日（月）に東海大学校友会館にて開催され、石井国土交通大臣、二階自民党幹事長より来賓の祝辞、濱口梧陵国際賞選考委員会の河田恵昭委員長（京都大学名誉教授／関西大学教授／人と防災未来センター所長）による受賞者と受賞理由のご紹介の後、石井啓一国土交通大臣から受賞者の皆様に表彰楯が贈呈されました。

引き続き行われた記念講演会では、先ず初めに、河田選考委員会委員長から「世界津波の日制定と濱口梧陵国際賞創設の意義」と題して基調講演が行われ、避難誘導だけではなく、被災地の復旧、復興を成し遂げた濱口梧陵氏の偉業が紹介されました。その後、首藤教授からは「津波への対策」、エディ・バーナード博士からは「Tsunami Preparedness: Is Zero Casualties Possible? (津波対策：死傷者ゼロは可能か?)」、チリ共和国内務省国家緊急対策室（ONEMI）のビクトル・オレジャーナ次官からは「The importance of collaboration between Chile and Japan (チリと日本の協力の重要性)」と題して、受賞者の方々からそれぞれ講演がありました。

授賞式・記念講演会のほか交流会を含め、国会議員の皆様、在日チリ共和国大使館の特命全権大使、濱口梧陵氏ゆかり地の和歌山県知事、広川町長、濱口家のご子孫の他、多くのご来賓にご臨席いただき、授賞式・記念講演会は約300人もの参加者で会場が満席となるほど盛況でした。



写真1 首藤伸夫教授



写真2 エディ・バーナード博士



写真3 チリ共和国内務省国家緊急対策室  
(ビクトル・オレジャーナ次官)